

プログラム

1. 佐藤毅彦（国立国会図書館）
国立国会図書館におけるデジタル情報の長期保存に係る調査研究の報告
2. Margaret Hedstrom (University of Michigan)
Digital Preservation: From Projects to Infrastructure
3. Paul Wu Horng Jyh (Nanyang Technological University)
Annotating Web Archives —structure, provenance, and context through archival cataloguing
4. Andreas Rauber (Vienna University of Technology)
Trustworthy Preservation Planning with Plato

背景：出版・情報流通環境の変化

- 出版のデジタル化の進展
 - 電子ジャーナルは当たり前
 - Kindle、iPad、携帯小説、携帯マンガ
 - Google Book Search、NDLでの大規模電子化
- 普段の生活の中での電子化の進展
 - 文書は電子的に作り、共有、保存する
 - プリントするのは読むためだけ？
 - Webは大事な情報源
- デジタル化は中身と入れ物の分離を意味する
 - ものの保存か、中身の保存か

図書館での取組み

- 出版物の保存は図書館、特に納本図書館にとっては重要な機能
 - 電子出版物の増加
 - インターネット上の「出版物」の重要性
- デジタルアーカイブ開発の進展
 - MLA連携における重要な要素
 - デジタル情報資源ラウンドテーブル
- 国立国会図書館での取組
 - 長期保存に関する調査研究

電子公文書の保存に関する取組

内閣府・国立公文書館

- 2005年度：「電子媒体による公文書等の管理・移管・保存のあり方に関する研究会」を設置、専門的検討を開始
 - 2006年度：電子文書の移管等のあり方に関して提言
- 2007年度：メタデータ、フォーマット等について調査研究
- 2008年度：電子文書の移管・受入れ等のプロセス全般について、プロトタイプによる総合的検証を実施
- 2009-2010年度：電子文書の移管・保存・利用システムに関する要件定義書の策定とシステムの構築
 - 2011年度から電子文書の移管・保存を開始する予定
- 2009年6月 公文書管理法の成立
 - 媒体の違いを問わず適切な管理と保存が求められる

長期利用・長期保存の問題点

- 難しさの理由

- 技術の進化の早さ
- 保存対象の多様さ
- 社会環境の変化

- 研究課題

- 技術的な問題： 収集と保存のシステムの開発
- 戦略的な問題： 何から取り組むべきか
- ポリシーの問題： 何ができれば良いのか